

# マラウイ・エヌクウェニ通信その5 2019年7月1日

Tipulikane. (ティプリカーネ) 英語で Please listen. 日本語で「聞いて！」を意味するマラウイ北部の現地語「トゥンブカ語」です。

マラウイに派遣されてから 22 か月目です。

今回は、私の配属先で実施されている乳幼児健診と予防接種についてお知らせします。

## Under Five Clinic (アンダー ファイブ クリニック 5 歳未満児健診)

マラウイの乳幼児健診は「アンダー ファイブ クリニック」と言って、0 歳から 5 歳になるまでの間、毎月健診を実施します。

日本の乳幼児健診では、身長測定、体重測定、管理栄養士や保健師との相談、医師の診察、臨床心理士との相談、虫歯の有無を調べる歯科健診なども含まれ、専門職が発育や発達、そして育児を全面的にサポートしています。

マラウイの乳幼児健診は、体重測定と予防接種のみです。

体重測定では、毎月きちんと健診に来てもらうことで、体重が増えているかどうかで成長を確認します。

しかし、吊り下げ式の体重計が壊れている、体重の記録を正しく書くことができない、体重表の意味がわからないなどの理由で、正しい成長の評価ができないことがたくさんあります。

同僚のヘルスワーカーには、体重だけで子どもたちの成長を評価しなくてはならない難しさと責任があります。

ある日の健診では、半数以上の子どもの体重増加が認められませんでした。一緒に実施していたヘルスワーカーもその異変に気がつき、「今月は子どもの体重の増えが良くないね。」「マラリアが多かった?」「下痢などの感染症が流行った?」などと地域の健康課題について話しましたが、実は誰かが誤って体重計を落としたことで、体重計が壊れてしまったため、正確な体重測定ができていないことが判明しました。これでは、健診の意味が無くなってしまいます。翌月には新しい体重計を導入してもらい、正しく体重測定ができるようになりました。



## Under Five Clinic の流れ

健診内容	ヘルスワーカーの仕事の流れ	対象母子の健診の流れ
体重測定	乳児：チテンジでくるみ体重計に吊り下げる。 幼児：体重計に自力でぶら下がるか、乳児と同様に測定する。 体重測定後は、ヘルスパスポートへ結果を記録する。	体重測定
健康講話	ヘルスワーカーの健康講座（マラリア予防、予防接種、栄養等）	健康講話を聞く。
台帳 (register) 記入	体重の転記と予防接種の確認をし、実施日を記入する。	ヘルスパスポートを受け取り、帰宅。
予防接種	対象児に予防接種を実施する。	対象者は、予防接種を受ける。
片づけ	ワクチン、注射器の在庫管理。	ヘルスパスポートを受け取り、帰宅。

乳幼児健診には、たくさんのお母さんとお子さんたちが来ます。200 人を超えることもあります。健診は、体重測定から始まります。母親は背負っていた子どもをチテンジ（アフリカ伝統布）でくるみ直し、体重計に吊り下げます。体重の記録が終わるとヘルスワーカーは業務が二手に分かれます。健康講話係と台帳記入係です。健康講話の間に体重測定の結果を個人のヘルスパスポートから台帳に転記し、さらに 1 人ずつ予防接種時期の確認をします。健康講話終了後には、予防接種対象者を呼び出し、順番に予防接種を実施していきます。

巡回先によっては、健診会場が無い場合、体重測定も、事務作業も、予防接種もすべて外で実施する青空乳幼児健診になる地域もあります。

## 予防接種 (Katemera カテメラ)

接種時期 種類・回数	出生時 (BCG) 日齢 0~14 (ポリオ)	生後 6 週以降	生後 10 週以降	生後 14 週以降	生後 9~11 か月	生後 15~23 か月
BCG・1 回	①					
経口ポリオ・4 回	①	①	②	③		
ロタウイルス・2 回		①15 週まで	②32 週まで			
DPT B 型肝炎 Hib (混合 5 価ワクチン) }・3 回		①	②	③		
PCV・3 回		①	②	③		
不活化ポリオ・1 回				①		
麻疹風疹・2 回					①	②

※ビタミン A 剤とアルペンダゾール (虫下し) を生後 6 か月以降、59 か月まで 6 か月ごとに経口投与する。

種類: BCG (結核)、ポリオ (急性灰白髄炎)、ロタウイルス、DPT (ジフテリア・百日咳・破傷風)、B 型肝炎、Hib (インフルエンザ b 菌)、PCV (肺炎球菌)、麻疹風疹、全部で 9 種類のワクチンがあります。

これらの予防接種は、子どもたちを病気から守り、乳幼児死亡率の減少にもつながります。

## 予防接種での工夫 (SORT-BOX の導入)

乳幼児健診は 4 人のヘルスワーカーで対応しますが、対象母子に対し人手不足と業務効率が良くないため、事務作業の 1 つ 1 つにとっても時間がかかります。

そこで、これを効率良く実施するため、ヘルスワーカーと一緒に予防接種の事務作業の業務改善をしてきました。

予防接種の業務内容	事務作業の課題
1. 体重測定と記録後、ヘルスパasポートで予防接種時期と要否を確認する。	体重測定と記録後に、ヘルスパasポートで予防接種の要否を確認するが、実施日記入後に予防接種対象児のヘルスパasポートの明確な分別ができていなかった。
2. 予防接種対象児は、ヘルスパasポートの予防接種欄に実施日を記入する。	予防接種対象児のヘルスパasポートは、ワクチンのクーラーボックスの上に重ねて置く、机の上や床 (地面) にまとめて置く等の分別の工夫はしていた。
3. 対象児を呼び出して 1 人ずつ予防接種を実施する。	しかし、誰が見ても分かりにくく、予防接種対象児のヘルスパasポートの見分けができず、確認に時間がかかり、効率が良くなかった。

業務改善目標と内容	改善後
<p>目標: SORT-BOX (分別箱) を使用することで予防接種の要否でヘルスパasポートを分別し、業務効率を上げ、業務時間の短縮を図る。</p> <p>内容: 空き箱を使い SORT-BOX を作製、各ヘルスパasポートに配布、ヘルスワーカーに使用方法を説明し、取り入れてもらう。</p>	<p>SORT-BOX を使用することで、予防接種対象児 (KATEMERA) と健診終了児 (Free) のヘルスパasポートを簡単に分別でき、誰が見ても明確になり、すぐに対象児の呼び出しと予防接種を実施できるようになった。乳幼児健診の総時間も約 30 分短縮することができた。</p>



SORT-BOX

左 KATEMERA が予防接種対象児  
右 Free が乳幼児健診終了児

SORT-BOX は空箱で簡単に作れて、その使用により、ヘルスパasポートが土で汚れない、業務が早く終わる、母子を長時間拘束させない、業務効率が良くなる等、メリットはたくさんあります。任地で持続可能なアイデアなので、ヘルスワーカーに説明を繰り返して使用を定着してもらいたいと思います。

※マラウイ エヌクウェニ通信に書かれている見解は、著者個人のもので。